

国立研究開発法人国立がん研究センター理事会（令和6年度第2回）議事概要

日時：令和6年5月31日（金）10：30～11：30

場所：国立がん研究センター 管理棟 第一会議室 ※Webex 使用

出席者：中釜斉理事長、大島正伸理事、平沼直人理事

本田麻由美理事、小野高史監事、近藤浩明監事、

瀬戸中央病院長、土井東病院長

欠席者：山内英子理事

I. 前回（令和6第1回）議事録の確認

- ・ 前回議事録について了承。
- ・ 前回議事録署名人を平沼理事と近藤監事に依頼。

II. 報告事項

1. 全国がん登録システム不備への対応

資料に沿って報告された。

2. 「研究インテグリティ」に関する検討の方向性について

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・ 医学生物学領域の軍事的転用の問題は想定しづらいと思うが、知的財産の面で可能性があることから、確認の要求項目が増えると考え。その際に、煩雑で時間がかかる方法となってしまえば、研究の遅延につながる為、好ましくない。また、規制を増やしすぎることによって精神的なハードルが高くなる為、注意が必要。

3. 政府の会議の状況

資料に沿って報告された。

4. 広報実績等

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・ 受動喫煙に関するプレスリリースについては、新しい概念の発見につながることであり大変素晴らしい。他にもすい臓がんのバイオマーカーの話にあるようながんセンターの基礎研究で得られた成果が使われるような取り組みはあるか。
- 当センターの基礎研究の出口戦略として、このような新しい成果が出た際に報告するようにしている。センターの取組で最近発表したプレスリリースでは、新しいCAR-T療法を取組がある。また、東病院で行った手術支援ロボットの開発については、現在は企業主導で開発や新機能追加のプロジェクトが進んでいる。プロジェクトが進んだ際には、当センター側からもプレスリリースを行い多くの方に知っていただくよう取り組んでいる。
- 創薬や医療機器開発など、シーズによってはセンター発のベンチャーを立ち上げるが、早い段階での知財戦略としては、すい臓がんのバイオマーカー（東レ）の様に、企業との共同研究を行っている。当センターの知財戦略として、企業との共同による共同研究費の獲得によりコントロールしている。

5. 投資委員会報告

資料に沿って報告された。

6. 4月分医業件数等

資料に沿って報告された。

【主な意見等】

- ・東病院では、高額医療品を連休後にすぐ使えるようにするため連休前に購入したことが4月分の収支に影響していると思われる。詳細を調べて来月報告したい。
- ・東病院は、新入院平均患者数は増加しているが、平均在院日数が昨年同月と比較して1日近く短くなっている。それが影響してか、病床利用率も低くなってる。影響はどの程度あるか。
- コロナの対応が他病院と大きく異なる。1名陽性の患者が出ると該当する病床全てスクリーニングを行い病棟閉鎖が行われていたため、全国的な流れに合わせた運用に変えることにした。過剰な病棟閉鎖が無くなれば、病床利用率も戻ると考えている。